

## 思考の殻

小清水 漸

1995年の正月大きな地震がありました。

多くの人が大切な肉親や友人を失い、住む家も失いました。

被災したその人達に行政が用意した住まいは、仮設住宅というプレハブ小屋でした。

その「仮設住宅」なるものを見たとき、私はやり場のない怒りをおぼえました。

これは人の暮らす空間ではない。住まいというものは、たんに雨露が凌げれば良いわけではないはずです。

住まいは文化的創造をする場所であり、人間の思考の殻としての大切な役割があるはずだと思いました。

もし私が住まいを失ったなら、地面に穴を掘り石を並べ木の枝を立て、その木の枝に草を葺きその場を自分の思考の殻にしようと思いました。

あの地震のひと月程前、私自身が家を建てていました。

まだ引っ越してはいませんでしたが、あの揺れでは潰れてしまっただろうと思いました。悔しくて残念な気持ちもありましたが、かたちあるものはいつか消えていくのだと、妙に落ち着いた気分でもありました。

幸い私の「思考の殻」は、激しく揺れた痕跡は残していましたが、潰れずに残っていました。

同じ頃大学で「和船をつくろう」と皆に呼びかけてプロジェクトを始めていました。

和船の造船技術は木造建築に通じるものがあり、日本文化の成立を知ることにとっても役立つに違いないと思ったからでした。

舟を二杯作ったところで、この授業は終了しました。

その後「つちのいえ」プロジェクトに加えていただいて、裏山の草を刈り、石を並べ、木を立て、土を練る作業に携わりました。

私にとっては懐かしい「版築」の壁を作りながら、改めて人の生活を育む空間は、大切な文化的創造の場なのだと思いました。

この10数年の間「つちのいえ」に携わった多くの若者達は、それぞれ自らの「思考の殻」について、真剣に考えてくれるようになるだろうと信じて居ます。

そしてまた、井上明彦さんのつちのいえに費やした膨大なエネルギーと、学生たちに対する粘り強い愛情の集積に敬意を表したいと思います。

(彫刻家・京都市立芸術大学名誉教授)



敷地開拓 2009/4/23



石積みを指導 2009/8/27



版築型枠外し 2009/9/17



竹木舞と窓枠づくり 2009/12/30



桂坂の小清水邸での忘年会 2009/12/23



小清水漸退任記念展案内板 2010/1/20